

歴史を考える

ライフネット生命会長
出口 治明

- * 世界を見る方法論は二つある
- * 貧しくなるか、生産性を上げるか
- * 出生率対策はフランスに学べ
- * 敬老原則から年齢フリー原則へ
- * 自然の摂理に反している少子高齢化
- * 歴史は文献解釈ではなく総合科学
- * 歴史には世界史しかない
- * 江戸時代は最低の時代だった
- * 交易から世界史が見える
- * 1000年前の3大都市という視点



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は出口さんに来ていただきました。1948年生まれでございます。京都大学を卒業後、日本生命に入社され、ロンドン現地法人の社長、その後、財務企画委員会ですか、金融制度改革等で当時の大蔵省といろいろ交渉された方です。日本生命を退職後、ベンチャーでライフネット生命という新しい保険会社を立ち上げられて今に至っております。先ほど伺いましたら若い頃からたいへんな読書家でおられたようでございます。専門ではないとご謙遜されていますが、歴史関係の文章をいくつも書かれ、たいへんよく読まれている本でございます。皆さんここで政治、外交、経済といろいろな話をお聞きしておられますが、昨今、きちんと

した歴史観の物の見方ということがこういう激動の時代には求められているという感じがいたしまして、実業の世界におられて歴史ということに深く考察をされてきた出口さんのお話というのが皆さんの参考になるのではないかと思います。ふうにご覧いただきありがとうございます。

それでは出口さんよろしくお願いたします。（拍手）

世界を見る方法論は二つある

出口 皆さんこんにちは。大先輩が多々いらっしゃる中で歴史のお話をさせていただくのはたいへん気恥ずかしい気もするんですが、せっかくの機会をいただいたので考えているところを少しお話しさせていただこうと思います。